

もせうし RIMUSE 二十歳の舞



第28回 YOSAKOIソーラン祭り
日程：2019年6月5日～9日
会場：大通公園をはじめとする札幌市内19会場

「広報もせうし」笹尾翔大の「モー突進レポート翔たいむ」。今回はワイド版として、今年の第28回 YOSAKOIソーラン祭りでも連続20回目の出場となる「もせうし RIMUSE」への突進取材です。なんと僕も本祭のステージに立たせてもらえることになりました。

二十歳になった もせうし RIMUSE

チームが結成されたのは僕が生まれたのと同じ平成11年。つまり僕、笹尾ともせうし RIMUSEは同じ年、ということになりましたね。

発端は初代表の鈴木光弘さんの呼びかけに集まった仲



YOSAKOIソーラン祭り初出場時



もせうし RIMUSE 総勢 40名で初出場

間たちで活動を開始し、平成12年の第9回 YOSAKOIソーラン祭りに出場したのが始まりです。

現在のチームメンバーは17名。みなさん、仕事や学校を終わってから集まり、日々練習に励んでいます。

一時の爆発的ブームが過ぎ去り、ここ何年も道内のよさこいチームが減少傾向にあるそうです。そんな中、20回目の出場となるもせうし RIMUSE。人が生まれてから成人するまでの期間である20年もの間活動してきました。これほどまでに人を魅了するよさこいの魅力とはいったいどのようなものなのでしょうか…

よさこいの魅力を探る

その魅力を探るには「実際に体験してみるしかない」と考えた僕は、創設メンバーである高橋浩一さんを訪ねてみました。すると、「今年の YOSAKOIソーラン祭りに旗振りが出てみるかい？」と、まさかのお誘い。もちろん断る理由はなく「ハイ」と二つ返事したものの…（ホントに大丈夫かな？）

早速練習に参加させてもらい持って来た旗は、中旗と呼ばれているもの。よさこいでイメージする大きな旗よりはかなり小さめです。しかし持つてみるとずっしりと重いポールに、空気抵抗もかなり1曲振ってみただけで想像以上の体力を使いました。

突進レポート開始

今年の YOSAKOIソーラン祭りでのもせうし RIMUSEの出番は8、9日の2日間です。妹背牛町を出発後、バスの中で目元にメイクをしてもらいました。（よさこいの出場者がよく目元をしているあのメイクですネ。）初めて



メイクを受ける顔がぎこちないですね

の経験に少し緊張しましたが、完成すると、「ああ、自分もよさこいの舞台に立つん

モー突進レポート

翔たいむ vol.2

ワイド版



だな」という気持ちになりワクワクドキドキ。

もせうしRIMUSEの最初のステージ、ホリデイスポーツクラブ北24条が僕の旗振りデビューとなります。

笹尾翔大よさこいデビュー

ついに本番。お客さんが見ている前で演舞はかなり練習と違いました。

「今日はこれからたくさん振るから無理はしないでお願いします」なんて考えていたのですが、思わず曲の序盤から力いっぱい振ってしまっただけです。結局最初の会場が終わったころには腕がパンパンになっていました。

怒涛の5連続演舞を越えた先に…

大通パレード会場は大通公園沿いの道路を前進しながら5回連続で演舞をするという、本祭の山場です。1回の



踊り手の皆さんも序盤から全力です。

演舞で進む距離は100m。始まる前に「パレード始めのほうは少し楽しんで踊ろうかなと思うんだけどなぜか序盤から全力で踊っちゃうんだよねえ」と聞いていた僕は、「ここによさこいの魅力のヒントがあるに違いない」と考えていました。

1回目の演舞が始まってすぐに、聞いていた話の意味が分かりました。旗を一振りした時に感じた腕のハリをものともせず、力いっぱい旗を振り続けていました。たくさんのお客さんが客席を埋める中、思い切り旗を振る爽快感…。(病みつきになりそう) 怒涛の5連続演舞を終えたころには全員が疲れ切った表情。でも、あの爽快感と終えた後の達成感は何にも代えがたい経験となり「なるほど、これがよさこいの魅力か」と確信しました。

いざメインステージへ

最後に参加さ

せてもらったのは、よさこいの晴れ舞台ともいわれる西8丁目会場。演舞の前には実行委員会より20回出場のご挨拶が贈られました。



感謝状を受ける岡田康夫代表(右)

今までで一番大きな会場に、たくさんのお客さん。テレビで見たあのステージに立つという緊張感がありましたが、よさこいの魅力に取りつかれた僕は、もう夢中で旗を振り続けました。



一心不乱に旗を振っています。

もせうしRIMUSEのみなさん、今回はとても貴重な経験をさせていただきました。僕も完き、ありがとうございました。僕も完全によさこいに魅せられました。(この後数日間、筋肉痛に悩まされましたが…) これからも「妹背牛」の名を背負って、末長く舞い続けてくださいネ。